

環境大臣賞

未来のためにできること

葛尾村立葛尾中学校3年

イトウ アイカ
伊藤 愛佳

「リサイクルをして SDGs の目標達成に貢献しよう。」そう決めた。生活の中で不要になった紙を捨てることは、森林破壊を促進しているように感じ、何か良いアイデアがないかと模索していた。この世の中に無限の資源があるのなら今の生活を変えなくていい。しかし資源の枯渇が進む中で、リサイクルをしたり、物を長く大切に使うことが求められている。そこで、シュレッダーゴミの再利用を考えた。

家庭科の先生に、不要なシュレッダーゴミを再生紙にして、少しでも紙のごみを少なくできないかと提案した。まず、シュレッダーゴミについてインターネットで調べてみると、リサイクルすることが難しいと書かれていた。リサイクル原料として適さないものが混じっていることや、裁断した紙は繊維が壊れてしまっており、扱いが厄介なのだ。それを踏まえ、紙の再利用についてアイデアを練っていると、1年生の頃に牛乳パックを使い「しおり」を作ったことを思い出した。これなら作れるかもしれないと家庭科の先生に協力をお願いした。シュレッダーゴミを水に浸し、その後ミキサーで粉碎し、水とのりを混ぜた。薄く延ばし紙状にし、乾かす作業をする。出来上がった再生紙を裁断し、紐を通せば「しおり」の完成だ。そこに書写の授業で、旧暦や花の名前を筆で書いた。貰った人が笑顔になれるような心温まるしおりが完成した。

葛尾村にある復興交流館「あぜりあ」に「しおり」を置いてもらい、自由に手に取ってもらえるようにした。私たちは総合的な学習の時間に、学習成果物を「あぜりあ」に展示すると決め、昨年七月から月に1回程度貼り変えながら継続して行っている。コロナ禍の中、人と人が直接会えなくても村の方々に元気なようにと、全校生徒で考えた企画だ。家庭科新聞や、書道作品、絵手紙、手芸品など自分たちで作った学習成果物を工夫して飾っている。「あぜりあ」を訪れた方々、村民の皆さんに授業で学習した内容を発表できる場ができて、私たちにとって、とても嬉しい活動の1つだ。シュレッダーのごみを再利用するには時間も手間もかかる。しかし、この活動が少しでもゴミの処分を減らせているのだ。また、今年度は制作物を低価格で販売した。売上金はなんと7200円にもなった。全額葛尾村社会福祉協議会に寄付した。自分たちの手で作ったものを売って、それがお金となり、またそれが村のために活用される。

こうした積み重ねにより葛尾村が元気になったらとても嬉しい。こんな小さな村でも、全校生徒が3名でも、力を合わせたら何か大きなことができる。私たちが取り組んできたものは実際に形として大きなものとなった。村のため、みんなのため、自分のために、出来ることを探し続けなければならない。探すことをやめない、それこそが未来を創る私たちに必要なことだ。小さなことでも当たり前ができるようになれば未来はもっと明るくなる。そう確信している。